

## 中学校の授業への足掛かり

2月15日に実施される予定であった『中学校半日入学』が、県下全域にわたる『まん延防止重点措置』の期間内にあたることから、開催日時未定の延期となっています。

そして今も、『まん延防止重点措置区域』ながら、感染状況はピークアウトするどころか、陽性者の増減は激しく、まだまだピークが見えない厳しい状況が続いています。

本来であれば、半日入学の場で、校舎内の雰囲気や授業・生活の様子を直接見聞し、肌で感じる事ができれば、期待がさらに膨らみ、不安も軽減されると思います。

しかし、その開催も先行き不透明な状況であることから、本日（2月17日）、瑞浪北中学校本務の先生（主幹教諭）に6年生を対象とした授業を行っていただきました。中学校の先生の授業を受ける機会は、なかなかありません。（生徒指導や教務主任等に生活や学習についての話をしてもらうことは他校でもありましたが。）主幹教諭は、北中校区全ての小学校に定期的に勤務し、子どもたちの様子を、特別支援・教育相談・生徒指導の3観点から参観されます。その様子について話を聞き、連携を図っています。6年生児童たちにとっては見慣れた先生で、今回の授業を楽しみにしていました。

実際の授業では、学習内容が豊富で、話すことのベースとなる滑舌の練習から始まり、中3教科書『故郷』の冒頭部分における主人公の気持ちの読み取り発表、新たな短文からの読み取り発表、そして類似した短文との比較と、テンポよく充実していました。また、中学校で大切となるポイントもしっかりと押さえられていたことから、子どもたちにとって学びの多い授業となったと言えます。12名全員があっという間に発言し、繰り返し発言する姿から授業に入り込んでいたことが明らかで、その中には、光る発言も随所で見られました。

今回の授業を通して、国語の楽しさ・奥深さを実感したとともに、中学校への興味・関心も高まったのではないかと思います。6年生の今後につながる授業となったことは明らかです。

